

農学部内 イシグスク

はいさーい！ きじむんやいびーん。

今回は、農学部にあるイシグスクを案内します。

通常、農学部関係者以外には公開していないエリアで、特別な許可をいただいて取材・撮影をしました！

イシグスクとは

農学部の敷地内(字千原)には、イシグスク(西原町指定文化財)があります。琉球王国の時代に自然の断崖を利用して築かれた人工の小高い丘です。

イシグスクの西方400メートルの場所に、棚原グスク(14-15世紀の築城)がありますが、その守りのため支城としてイシグスクが作られたといわれています。

イシグスクは、自動車道の新設や、平成14年7月の民間の土地造成工事で一部が破壊されたので、かつての姿は見る事ができません。

現在のイシグスクには、棚原集落の古い墓があります。津覇高墓(つはたかばか)や、第五回で紹介した「先代 大殿内門中按司墓(うふどうんち もんちゅう あじばか)」などです。発掘調査報告書によれば、破壊前には無数の古墓群がありました。21基の墓を確認しています。

イシグスクの戦争遺跡

第二次世界大戦の沖縄戦の時の戦争遺跡も残っています。

昭和19年8月頃から、千原一帯に石部隊(いしぶたい)が駐屯しました。百人ほどの兵隊がいたようです。地元住民を総動員し、日本軍のイシグスク陣地壕、高射砲、210高地などを作りました。

昭和20年4月1日、米軍が北谷町砂辺から上陸すると、その日のうちにこの付近に到達。すぐに激戦地となり、一面焼け野が原となりました。イシグスクは真っ白な岩山と化し、そこに人骨がごろごろと転がっていたそうです。生き残った石部隊は、武見中将をはじめ2、3名のみでした。現存する墓には、砲弾の後などが無数に残っていて、沖縄戦の激しさとその爪痕を見ることができます。これらの墓は現在も子孫によってお参りされています。



イシグスク 農学部側から撮影



珍しい5連の墓 一部崩落。砲弾跡あり



墓口の上は、砲弾あと

これらのほかにも琉大内の史跡やスポットはたくさん。また次回に御案内します！

(AS生)

参考文献

西原町史編纂委員会編『西原町史』第五巻資料編四 西原の考古 平成8年3月

仲間勇栄・仲地宗俊・菊池香「琉球大学千原キャンパスにおける森と人々の暮らしに関するフィールド

下調査」『琉球大学農学部学術報告49号』平成14年12月

宜野湾市教育委員会文化課編集・発行『ぎのわんの地名内陸部編』平成24年3月

沖縄県教育庁文化財課編『イシグスク内古墓群』沖縄県教育委員会、昭和61年3月

取材協力：琉球大学農学部亜熱帯フィールド科学教育研究センター

琉球大学附属図書館 沖縄資料担当 平成26年12月1日発行